

GEKKAN ORIMOTO

## 月刊 織本

11月号

2010年11月1日 Vol.195

発行 医療法人財団 織本病院

印刷 〒204-0002 東京都清瀬市旭が丘 1-261

TEL 042-491-2121 URL <http://www.orimoto.or.jp/>

発行人 高木由利



矢車天人菊

## 第59回開院記念式に思うこと

理事長・院長 高木由利



肌寒い日が訪れ、遅れた秋を体験しています。先日、美しい日本料理をご馳走になる機会がありましたが、お膳の上には紅葉のもみじや秋らしい飾りがあり、日本の秋の美しさをひしひしと感じました。

\* \* \*

10月21日は第59回織本病院開院記念式が行われました。当院は昭和27年（1952年）開院なので、第59回ということは創立58周年になるのです。織本病院は私より1才年下です。当院が歩んできた道は私が育ってきた時代と同じなので、自分の父が創ったという以上に親しみを感じるのです。

今回は10年勤続者7名と20年勤続者1名の表彰を行いました。私はこの表彰をしながら、人生の中で10年、あるいは20年同じ所で働き続けてきた8名の職員達は、どのような試練を乗り越え、そしてまた、どのような喜びがあったのかを思い巡らしました。

\* \* \*

私は当院に来て22年になります。2才と3才の息子を連れて週3日勤務の非常勤医としてのスタートでした。37才の時です。医師としての仕事ができるなら、どんな試練も乗り越えるという意気込みでした。そして、主婦としても母としても誰にも遜色がない1

人の女性として生きていく決意をしたのです。私は身長150cm、体重41.8kgと小さいのですが、底知れぬ体力の持ち主でした。当時を思い出して、よくあれだけ働けたものだといながら自分の体力に感心してしまいます。息子達が幼稚園に上がってからは週4日勤務になり、その後は幼稚園や小学校、中学校の役員をしながら常勤医へ移行していきました。この生活で体験したことは、情熱を持ってしっかりと学びながら仕事を積み上げていくと、いつしか仕事だけでなく自分の人生の方向性さえもはっきりしていくことでした。今度は何をしたら良いかと焦ったことは1度もありません。何故なら1つの仕事を完成させると目の前の扉が開き、その先に次の仕事を用意されていた。この22年間に私は何回扉を開けたことでしょうか。

この夜、表彰者の顔は明るく輝いて見えました。10年を終了して11年目の扉を開く人、21年目の扉を開く人。そしてその扉の先に用意されていることは全員異なるのです。私はこの光景を頭に描いた時、明るく照らし出された希望の道が扉の向こうに真っ直ぐに見えてくるのを感じました。

# ブランドと仕事 ①

## ～ 職員へのメッセージ ～

事務部長 箕輪 比呂志



今年の夏は記録的な猛暑に見舞われ、この10月に入り、やっと秋を感じられる日々が続いてきました。私のスポーツの趣味（3月号月刊織本記載）であるゴルフも暑さから逃れて、北海道、河口湖の高原限定で僅かばかりのプレーで我慢し、乗馬もあまりの暑さに7月下旬から遠ざかってきました。乗馬は結構ハードなスポーツです。これに加えて、落馬した際の骨折等を避けるためのプロテクター、帽子を炎天下で着用しますので兎に角、暑いのです。ガーデニングも暑さ対策に追われて、寄せ植え本来の花の美しさを維持できませんでした。

このようにプライベートは暑さとの戦いでしたが、仕事面では初めての病院勤務との戦いの日々でした。今の仕事は初体験ではありますが、某大手ビール・ホールディングスに勤務していた20年間、医薬部門の仕事に携わってきたことから数百施設の医療機関を訪問した経験がとても役に立ちました。

病院勤務を開始して間もなく、一般企業でも病院でも経営に対する考え方は共通していると思ったことがあります。特に7月の日本病院学会に参加して、このことに確信を得ました。なぜならば、多数のマーケティング用語が演題に含まれていたからです。

この頃から、私が企業に所属していた過去に日頃から大切にしていた“あるキーワード”が頭に浮かんできました。それがブランド（銘柄、商標）です。ブランドというところからは、ルイ・ヴィトン、コカコーラ、レクサス等のイメージがあるかと思います。ここからは、「ブランドと仕事」について皆さんと一緒に考えてみたいと思います。

皆さんは、「自分が何のために働いているのか？」について考えたことがありますか。一般的には、当然、衣食住が原点ですが次に来るのは、会社の発展ため、自分を磨くため、社会性の維持のため等の様々な答えが返ってくることでしょう。私の場合、普段は無心で“ある時点”まで働き続けて来ました。しかし、20年

程前になりますがいざ立ち止まって考える機会がありました。私は、主として営業部門に従事してきたことから、多くの機会で「顧客との関係でモチベーション（やる気を起こす、動機付けされる）されている」ことに気が付きました。気持ちが高揚したり、落ち込んだりすることが顧客によって左右されているのです。職場で褒められたり、叱られたり、また家庭事情も大きく影響を与えますが、仕事が楽しく、苦痛でなくなるためには職場での人間関係も重要であると同時に、顧客との良好な関係が私にとっての最大のモチベーションでした。

そこで私は、仕事をする中でその時の収入の場を与えてくれている会社について、「会社は誰のものか？」という視点で考えてみました。「日本型は、従業員のもの」という意識が反映されていますが、「欧米型は、株主のもの」という意識が強いように感じます。最近こそ減りましたが、いまだに日本では「我社」という表現も残っています。このことから、少し視点を変えて欧米企業に目を向けてみてはどうかという問いかけが出てきます。欧米企業では、経営者・従業員に「何のために働いているのですか？」と質問すると、多くは「我々は、ブランドを重視している」と答えるといえます。すなわち、企業自体が経営者・従業員の誇りや夢となっており、ひいては顧客を惹きつけるという構造を生み出しているようです。「株主か従業員か」という発想だけでは無く、最も重要な顧客の存在を忘れてはならない。顧客、株主、従業員すべての価値を高めることを目指すものがコーポレートブランドを中心とした経営と言える」これを私は大切にしたいと考えています。

コーポレートブランドとは、他社と比べた自社の特徴、その企業らしさです。優れたコーポレートブランドを構築することで自社と他社を区別させ、圧倒的な存在感を確立することができるのです。顧客の視点か

らは、そのブランドでなければ味わえない体験を約束してくれるのだと思います。例えば、ディズニーランドは、それなしでは味わえない独特の世界を提供し、顧客に深い満足を約束しています。ここで大切なことは、そのブランドが持つ独自のビジョン、理念を忠実に事業として再現することです。このことが「ファンがファンを増やす」という仕組みにさえなっています。そして、顧客が感じた満足感を従業員が実感できれば、従業員に達成感が得られて新たな行動への活力となり得ます。ですから、織本病院の理念を忠実に病院業務に再現することが大切なのです。

私自身、駆け出しの頃「顧客は、私の人間性や仕事内容を通じて企業のイメージを作り上げる」つまり、

企業のイメージは私達企業人との接点を持ったお客様が作り出していくと信じて働いていました。しかしながら、まだ20歳代でしたので、自分は単に企業のイメージ作りの存在であって、当時は「ブランド」までの考えにたどり着いていませんでした。そこで、これを機会にひき続き「ブランドと仕事」について皆さんと考えていきたいと思っています。

\* \* \*

早いもので、私が当院で働き始めてから半年強が過ぎ、職員はもとより顔見知りの患者様も少しずつ増え、院内でお話ができる機会も増えてきました。私の姿を見かけましたら、お気軽に声をかけて下さい。

## THE Vol.52 病理診断

### 『カマス理論』

聖マリアンナ医科大学 診断病理学教室教授  
高木 正之 先生



カマスという魚は、人を襲うこともある気性の激しい魚です。水槽にカマスを入れ、その中に餌の小魚を入れるとカマスは小魚に襲いかかります。次にカマスと餌の間に透明のガラス板を入れ、一方にカマス、一方に小魚を入れると、カマスは餌を食べようとしてガラス板にぶつかります。カマスは何度も板にぶつかっているうちに諦めてしまいます。その後ガラス板をはずしても、小魚を食べに行かなくなります。カマスは餌を捕る能力があり、目の前に餌があるのに餌を食べることができません。

人間の組織でも同じです。何度かうまくいかない経験をすると、障害となる壁があるものと思込み、諦めてしまいます。

そのカマスの無力感を打ち破り、能力を発揮するにはどうすればいいのでしょうか。それは、今までその水槽にいなかった別のカマスを入れるのです。そのカマスはガラス板があったことを知らないで、自由に餌を食べに行きます。それを見た周りのカマスが、目が覚めたように猛然と小魚を食べに行くようになります。

人間の組織でも、思込みのガラス板ができてしまうと無力感に陥ってしまいます。そこには新しいカマスのような人材を入れることも必要です。今までいた人材も目覚めて、それに従うようになるからです。

組織の活性化には、新しいカマスとなる人を入れることも方法です。また、既にそのような自由に泳いでいる人材がいるのに気がついていないかもしれません。ひょっとしたら、あなた自身が新しいカマスかもしれませんね。





**アコースティックギターデュオ  
Healing Art コンサート**

2010年11月12日 (金)  
14:30pm 開場 15:00pm 開演  
2F ラウンジ  
入場無料

2本のギターで織り成すギターバラード  
Healing Guitar (ヒーリングギター) をコンセプトとしたギターデュオ。  
青空、星空、雪景色などの自然の風景... 人の優しさや切なさ...  
そんな情景や心情の見えるハートフルな  
ギターミュージックをぜひ聴きに  
いらしてください。

**Program**

- ー ポップスカバー曲 ー
  - 夜空ノムコウ
  - Moon River 他
- ー オリジナル曲 ー
  - 優しい雪
  - 流れ星のように 他

## お詫びと訂正

いつも月刊織本をご愛読いただき、ありがとうございます。先月発行致しました月刊織本10月号の裏面に掲載した『外来診療体制変更のお知らせ』の中に間違いがございましたので、訂正しお詫び申し上げます。

【訂正箇所】 (誤) 水曜日 - 小山 英俊 (正) 木曜日 - 小山 英俊

## 第116回 腎疾患ゼミナール

### 『明るく真剣に死について語りましょう』

講師：腎臓内科 高木由利

人は誰でも1度生まれて1度死ぬことが定められています。  
生まれることは明るく受け入れられるのに、なぜ死の話はタブーなのか...

どなたでもご参加頂けます。皆様ぜひお越しください。

日時：2010年11月18日 (木)  
午後1:00～  
会場：オリモトホール(当院4F)  
参加費：無料

